



ゆめに向かう『やる気』ゆめをかなえる『本気』何度でもやり直す『根気』

輝け！口石っ子 佐々町立口石小学校 学校便り

令和3年9月10日 19号 文責 校長 岩下裕之介

全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査結果

全国の6年生を対象に、5月に実施した全国学力・学習状況調査の結果と、長崎県の5年生を対象に実施した長崎県学力調査の結果が出されましたのでお知らせします。

○ 6年生 全国学力・学習状況調査の結果

	国語	算数
長崎県	63	68
全国	65	70
本校	県平均を上回っているが、全国平均より下回っている。	全国平均、県平均より下回っている。

もう少し詳しく見ていきます。

- 〈国語〉・学習指導要領の領域別に見ると、「知識及び技能」「書くこと」が全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」は同程度である。「読むこと」で下回っている。
- 〈算数〉・領域別に見ると、「測定」が全国平均以上、「数と計算」「データの活用」は全国平均とほぼ同等、「図形」「変化と関係」は平均以下である。
- 〈学習状況調査〉
 - ・学習に一生懸命取り組んでいるかという質問に対して、「はい」と答えている子どもたちの割合が多い。
 - ・国語科や算数科の学習だけでなく、外国語の学習に対しても意欲的に取り組む子どもたちの割合が多い。
 - ・ICT機器を活用した学習に意欲的に取り組み、話し合い活動においてもICT機器が有用だと感じている子どもが多い。
 - ・自己有用感・学習習慣について、平均よりやや下回っている。
- 〈考察〉
 - ・国語の「書くこと」で正答率が高くなっている一方で、算数の記述式問題についての正答率が全国平均よりも低くなっている。このことより、自分なりの考えを写す意欲や筋道を立てて書く力は高いが、題意をとらえて書くことに課題があると思われる。
 - ・国語科や算数科だけでなく、他教科の学習に対しても意欲的に取り組んでいることが分かる。ICT機器が有用だと感じている子どもが多いことから、授業での活用も進んでいると考えられる。
 - ・子どもたちは大変素直で、学校生活において真面目に物事に取り組んでいる。しかし、自己有用感は平均を下回った。このことから、自分に自信がもてない子どもが多いと考えられる。学力を高めたり、成功体験を積みせたりしながら、自信をつけていきたい。全校では、今後も、低学年の頃から、自分や友達の良さを考えたり、書いたり、教師が良さを伝えたりする活動を重視し、自己有用感を育む手立てを考え実践していきたい。

○ 5年生 長崎県学力調査の結果

	国語	算数
長崎県	60	65
本校	県平均を大きく上回っている。	県平均を大きく上回っている。

もう少し詳しく見ていきます。

- 〈国語〉 ・ 領域別に見ると、「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「読むこと」が、県平均を大きく上回っている。「書くこと」が、わずかに県平均を下回っている。
- 〈算数〉 ・ 領域別に見ると、「数と計算」「図形」「データの活用」が、県平均を大きく上回っている。「変化と関係」は、県平均を下回っている。
- 〈考察〉 ・ 県平均を上回ることができているのは、学力不振の児童が少ないことが第一に挙げられる。日々の授業を大切にしてきたことはもちろんのこと、家庭学習への意識付けや、個別の支援も効果的になされていると言える。
- ・ 国語、算数ともに記述式問題の正答率が高くないことから、文を書く力を身につけさせる必要がある。そのために、国語では、言葉の関係をとらえながら文を読んだり、主語や述語を落とさずに書いたりすることなど、読むことにおいても書くことにおいても、言葉の力をつけることを意識したい。
- 算数では、ノート指導に力を入れ、根拠をわかりやすく記す力を身につけさせていきたい。

本校におきましては、今回の調査結果を、6年生、5年生のみの課題としてではなく、本校で6年間、あるいは5年間、学習してきた児童の姿として「学校全体の課題」であると受けとめ、今後全学年を通して改善を進めていきたいと考えています。今回の結果をもとに、授業において指導方法を工夫することや、よりきめ細かく家庭・地域と一体となり取り組んでいくことを本校の課題として、引き続き今後も教育改善を図っていきます。保護者・地域の皆様には、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

なお、今回の調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

夏休み作品展

6日から、校内夏休み作品展を開始しました。子どもたちの作品を見ていますと、その後ろにある、保護者の皆様の温かさが見えるような気がします。一人だけの力で作品を作り上げた児童もいるとは思いますが、多くの場合、保護者の皆様のアドバイスやご協力があって、これらの素晴らしい作品が完成したのではないかと考えます。作品づくりへのご協力、本当にありがとうございました。

私も子どもの頃、父は外国で仕事をする事が多くて不在だったので、母に手伝ってもらいながら夏休みの作品を作っていました。歳月が過ぎて、自分が父親になってからは、毎年、息子と娘の作品づくりのアイデアを求めて、図書館に行ったり、地域主催の工作講座に、親子で参加したりしていました。一緒に作り始めると、本人より私をはじめ家族の方が、情熱を燃やしていました。それはそれで、素敵な親子のふれあいだったのだと、懐かしく思い出します。

今年度は、先日お知らせしたように、校内だけの夏休み作品展でしたので、学級ごとにお互いの力作を見に行きました。自分のがんばりを再認識したり、友達の作品の良さを発見したりする良い機会となりました。

